

アトリエ 琉游舎 だより 157号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

2023年7月19日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

有縁無縁の精霊を思い感謝する日

お盆施餓鬼法要

8月13日（日）10時半から

- お盆は祖先の霊を供養する行事です。この期間には祖先の霊が子孫や家族の元に帰って来るとされ、盆踊り、精霊流し、迎え火、送り火などの様々な行事が営まれます。日本人古来の祖先への感謝と供養の気持ちが仏教の考えと融合し今も生活の中に定着しています。
- 施餓鬼会は貪り苦しむ餓鬼に対し飲食を施し、先祖代々や広く無縁の諸精霊を供養する法要です。自分の命はすべての生命と繋がっていることを自覚し、自らの欲や貧りを反省するとともに生きとし生けるものすべてに感謝し思いを巡らす大切な法要です。
- 琉游舎ではお盆と施餓鬼会を融合して「お盆施餓鬼法要」を行います。有縁（親や祖先）の精霊だけではなく、有縁・無縁を問わないすべての精霊への供養と回向の法要です。
- 一年に一回、自分の近い故人や祖先に思いをめぐらし感謝し、また永遠の過去から永遠の未来までの、有縁無縁の精霊を思い感謝し供養する日にいたします。また受難、殉難、遭難、自然災害、人為災害、戦争、病没、公私問わず、有史以来亡くなられたすべての方へ供養・回向し、私達の安寧と生きとし生けるものの平和を祈念いたしたいと思えます。
- ただ祈念すれば何事も叶う訳ではありません。大切なことは神仏にお願いすることではなく、私たちが「願い、誓い、行う」ことです。家内安全息災延命などを願い、有無両縁の精霊の前で願いを誓い、日々の生活の中で願いのままに行うことが、私たちが法要を行う真の意味であり目的です。

7・8月スケジュール

月 火 水

7・8月スケジュール			20	21	22	23
月	火	水	映画会 お休み			
24	25 読書会 13時半から	26	27 映画会 13時半から	28	29	30
31	8月1日	2	3 映画会 お休み	4	5	6 写経会 13時半から
7	8 読書会 13時半から	9	10 映画会 お休み	11	12	13 お盆施餓鬼法要 10時半
14	15	16	17 映画会 お休み	18	19	20

読書会

7月25日

8月8日

(火) 13時半

写経会

8月6日 (火)

13時半

映画会

変則日程ですが
が開催します

今まで一度も言われたことがないのですが、もし「あなたの英語はお上手ですね」とネイティブの方から話す英語を褒められたら、大変嬉しくなってしまうことは間違いありません。衣食住に関わるショッピングやホテル、レストランではなんとか意思を伝えることはできましたが、ビジネスの場では端から英語を聞き取ろうという気持ちは放棄して、通訳に頼るばかりでした。ただレセプションの場などで話しかけられてはどうしようもなく、単語を羅列するか、日本語でまくし立てて相手がこれはダメだと諦めるのを待つか、ただ頷き曖昧な笑いでやり過ごすかのどれかでした。ビジネスマンであった30数年間、いくらでも英語を習得し駆使するチャンスはあったのに、結局今の今まで、私は「日本人であること」で過ごして来てしまいました。

孫のジオ君がオーストラリアからやってきました。父は濠州人、母は日本人。生まれも育ちも濠州、現在10歳。週一回の現地の日本語補習校と休日のババとのライン電話の会話以外は基本的には日本語を使う環境にはないにもかかわらず、3週間の我が家での滞在期間は全て私たちとも近所の人たちとも、体験入学で通った小学校の子供たちとも日本語で過ごしています。そこでジオ君が一番困惑したことは「日本語上手だね」や「ハロー」と呼びかけられることでした。彼のナショナリティは日本と濠州の二重国籍、日本では彼は日本人です。「日本語上手ね」の言葉に「外国人なのに」という響きを聞き、ジオ君は自分のナショナリティを否定されていると感じてしまうのでしょうか。同様に「ハロー」と呼びかけられることは、ジオ君の容貌が「いわゆる日本人」と異なっていることから発せられる言葉だからです。彼は日本に来て初めて「日本人であること」と「ジオであること」の自分の意識と他者の認識のズレを身をもって学ぶことになりました。

ナショナリティには2つの意味があります。1, 国民性、民族性（共通の起源や伝統を持ちしばしば国家を構成している人々）2, 国籍（出生または帰化によって特定の国家に属する状態）です。その二つの違いを認識して今までもこれから生きていくジオ君に対して、「日本人であること」が同時にその二つと一体になっていることに何の疑いもなく生活している私たちのような「いわゆる日本人」との出会いが前述したジオ君の困惑を生み出したのでしょうか。ナショナリティに自己のアイデンティティを求めることとナショナリティから解放されることとどちらの方に私たちは進むのか。私たちの世代は「日本人であること」に安住していてもさほど不自由は感じませんでした。ジオ君の世代はグローバル化の流れの中で安易にナショナリティを振りかざせば不信と対立を生み出すことは昨今の世界情勢が示している通りです。アイデンティティは畢竟自己と他者との境界認識の問題です。自己の境界を「私」に引くのか、家族、共同体、社会、国家にその境界線を拡大していくかで自己は拡大増殖をし続け、逆に希薄になった「私」は他者と同一化し吸収されてしまうでしょう。私はこれがナショナリズムの本質ではないかと考えます。ナショナリティに自己を同一化させたあげくに自己を失ってしまうと言う自己矛盾が起きてしまうのです。10歳にして「私」である自己と私以外の他者の関係性を、理屈でなく感覚として認識し安易に「日本人であること」や「濠州人であること」に潜り込まないジオ君のアイデンティティに、私はこれからの地球人の生き方を教えてもらいました。

お釈迦様にはナショナリティの考え方は存在しません。衆生は等しく仏の慈悲を与えられるからです。仏の慈悲は無分別無差別です。153号の狂言綺語に書きましたが法華経はそのことを薬草喩品第五で分かり易く説明をしています。「如来の説法は一相一味なり（中略）唯如来のみあって、此の衆生の（中略）何の事を念じ、何の事を思し、何の事を修し、云何に念じ、云何に思し、云何に修し、何の法を以て念じ、何の法を以て思し、何の法を以て修し、何の法を以て何の法を得ということを知れり」仏の教えはただ一つ（一相一味）です。個々の衆生が何を考え何を知り何を望んでいるかはそれぞれ異なってもその実相は一つ（一相）、つまり機根は違ってもすべて仏性を備えていると衆生を観ることで、お釈迦様はそれぞれの衆生の程度と能力に合わせて各々に分別して差別してその教えを説くのです。説き方は異なってもその教えの帰趨するところは一つ（一味）、すべての生きとし生けるものは仏になることが出来るとの教えです。これが「一相一味」です。仏は私たち衆生に対して慈悲を平等に与えます。しかしその与え方は受け取る衆生の受け取り方に合わせてなのです。衆生一人一人にとりそれは「多相多味」です。各々の相（衆生）に合わせてそれぞれの味（教え）を私たちに注がれる仏の慈悲は、私たちが各々の個性（相）に従ってそれぞれの方法（味）で仏の道へと歩むためのものです。その「多相多味」の導きの下に歩み続けた各々の衆生の帰趨するところは全て同じ処（一相一味）、つまり安らぎの処です。仏教は自己と仏との関係性の宗教です。仏と私が一対一の中で信と慈悲を双方向に注ぎ合う宗教です。仏の教えは「各々の私」のためだけの唯一無二の教えです。それは他者には与えることが不可能な教えです。仏にとり衆生各々はかけがえのない唯一無二の存在です。その衆生を余すところなく仏の道へと救い取ることが仏の「願い、誓い、行い」なのです。仏には各々の存在こそが慈悲の対象です。教団や共同体や国家などの集団は仏の慈悲が注がれるべき対象ではないのです。

一般的に宗教と言えば人間を対象としたものでしょう。ところが仏教が「衆生を救う」と言うとき、それは人間だけではなくこの世の生きとし生けるもの、迷いの世界にあるあらゆる生類、動植物、微生物を含めた言葉です。人間は仏の慈悲の対象の一部にしか過ぎません。仏からみると国家や民族
琉游舎：戸井 出琉・恭子
や教団は取るに足らないものなのです。ジオ君が図らずもナショナリティが
問い合わせ：0287-53-7848 08033508152
取るに足らないものと直感したことに、これからの衆生の生きるヒントが
矢板市大槻2319-17コーリーナ矢板C-850
隠されていると期待することは過大なことでしょうか。
メール：toi101izuru@outlook.jp